

# 「動きなさい！」

## スワミ・イーシュワラーナンダ

1975年7月3日に、私は東京から飛行機で一晩かけてオークランドのシッダ・ヨーガ・アーシュラムに到着し、夕方のサツァングにやっとのことで間に合いました。サツァングの司会者は一人一人を歓迎し、「オーム・ナマー・シヴァーヤ」のチャンティングを紹介しました。

私はバーバとの初めてのダルシヤンを、喜びに満ちあふれ楽しみに待っていましたが、チャンティングに合わせて体を揺らしながら、薄暗いホールの床に座っていると、少しくとうとしてしまいました。その時、私のみぞおちに明るい金色の光が突然現れ、まどろみから私を勢いよく引っ張り出しました。私が目を開けると、バーバがちょうどホールに入ってくるのが見えました。

バーバは、ホールの正面の彼の椅子まで歩いて行き、席に着くと、私たちと一緒にチャンティングを始めました。私が彼の美しい姿を、あらゆる細部まで吸い込むように見詰めていた時、驚くべきことが起こりました。バーバの顔は青い光に包まれて、そして次から次へとさまざまな伝統の聖人の顔に変わり始めました。一人はターバンをかぶってあごひげがあり、別の一人は丸刈りでした。インド人らしき人、モンゴル人らしき人、欧州の人たち——そして皆がそれぞれの衣装を身に着けていました。

最後に、バーバの顔に戻ると、私の心の中でこう話す声が聞こえました。「これがその人である。これが皆のためにすべてを与えた、偉大な犠牲になった者である」。私は、グルの本質が私に示されているのだと直感的に分かりました。グルは、完全に神に自分の人生をささげ、人類のために、この世界における神の恵みの媒体となっている存在です。バーバがそのような存在であることを、私は見せられたのです。

あなたの想像通り、バーバに近づいて会う時間になると、私は非常に興奮していました。私は、私の真理の探究を象徴するような贈り物を幾つも日本から持ってきており、彼にささげようとしていました。私は、バーバはほとんど英語を話さないと聞いていたので、彼がどんな言葉で私を迎えるのか分かりませんでした。

私はダルシヤンの列に並び、バーバの椅子の前によく到着した時、ダルシヤンの籠の中に贈り物を置くと非常にゆっくりと、日本で学んだ正式のお辞儀を仰々しく行いました。私の額が床に触れようとしていたちょうどその時、私はバーバが英語で非常にはっきりと、力強く大声で言うのを聞きました。「動きなさい！」

私は動きました——急いで出口通路を通過して自分の席へ下がりました。私は立ち去る時にバーバを振り返って見ながら、「あれは本当に起こったのだろうか」と、疑問に思いました。するとバーバは私をじっと見詰めて、「そうだ。『動きなさい！』と、私は言った」と、私に確信させるかのようにうなずきました。

自分の席に戻ると、バーバの言葉、「動きなさい」の一つの意味が見えてきました。私はバーバがこう言っていたと感じました。「そうだ、グルとして、私はあなたをゴールへ導く。しかしそれはあなたの期待するようには起こらない。だから動きなさい——あなたの期待を手放しなさい！」

シッダ・ヨーガの道をこれまで 47 年間歩いて来た中で、私の人生にはたくさんの動きがありました。私は最初からずっとそれを見えています。私が限界ある自分の概念を手放し、グルの教えを受け入れた時、私は暗闇から光へと、限界ある自己認識と収縮の場所から自由や広がりや喜びの場所へと、着実に動いて来たのです。

今日、私は、バーバが最初に私に掛けた「動きなさい」という言葉の、変容の力と恩恵が分かります。そして、私は今も動いています。



© 2022 SYDA Foundation®. 著作権所有。